



平成28年6月24日  
佛教大学附属幼稚園

G・T・T

園長 藤堂俊英

わが子が小さいころ、休日には時おり上賀茂にある深泥池にバード・ウォッチングを兼ね遊びに行きました。氷河期の生き残りの動植物が生息する学術的にも貴重な池と言われています。そこから車で10分弱の所にある宝が池公園にもよく遊びに行きました。四季折々の花が咲き、小鳥たちの声が聞える散策にはもってこいのところでした。子どもと一緒に小鳥の声を聞いていると、『風にのってきたメリーポピンズ』のムクドリの話思い出したものでした。バンクス家のお手伝いさんメリーポピンズがお世話をしている双子の赤ちゃんジョンとバーバラの所には、いつもムクドリがやって来て二人と楽しいおしゃべりをしたり、時にはビスケットをもらったりしていました。ところが1歳のお誕生日を迎えたころ、2人はどうとう木や日の光や風や小鳥の言葉が分からなくなってしまい、話し相手を失ったムクドリがそっと涙を流すという話です。

話は変わりますが今から28年ほど前、宝が池にある京都国際会議場で仏教者、哲学者、科学者が集まり、環境や教育や医療などさまざまな方面において危機に直面している現代人の暮らしをめぐるフォーラムが8回にわたって開かれ、それが本になっています(『新しい価値観を求めて』NHK 出版)。その4回目に社会学者の見田宗介先生が「仏教のく教え」の知恵に学ぶ」という講演をされました。直前までインド南部デカン高原にあるエローラの石窟寺院を訪れていた先生は、そこで三体の並んでいる仏像を見て、教育をする際の準備段階を暗示する三つのティーチング・ポーズがあることを知り、古代における教育の意識の高さを感じたと言われるのです。

その三つのティーチング・ポーズとは、最初はギビング・ポーズ。つまり自分をオープンにして「明け渡す」という姿勢です。恐らくそこには、まずは自分のおもいを一旦停止させて、相手の言葉を待つとか、相手の話に耳を傾けるということが含まれているのでしょう。二番目はタッチング・ポーズ。つまり相手の「気持ちに触れる」という姿勢です。恐らくそこには、言葉のキャッチボールを通して、相手の気持ちに触れるようにする、そういうことが含まれているでしょう。そして最後の三番目に来るのがティーチング・ポーズ。つまり「教える」という姿勢です。

運動を始める前には準備体操をします。料理を始める前には下準備をします。そうすることによって、その後の流れがスムーズになります。幼稚園で子どもたちに話をする時にも、この三つのステップを踏まえるようにしています。例えば食事をする前の「いただきます」という言葉の大切さを伝える時には、今日の朝食食べた食べ物や好きな食べ物の話から始めます。そして次に、ウシさんたちブタさんたちニワトリさんたちお魚さんたちは、なにも悪いことをしていないのに料理されて皆のお腹の中に入るね。それは皆に元気をくれるため、皆に大きくなってもらうためだよ。だから大切ないのちをくれた動物さんたちには感謝の気持ちをこめて「いただきます」という言葉を聞かせてあげるんだよ、というような順序で話を進めます。見田先生のいう三つのティーチング・ポーズは私たちが子どもたちに何かを教える場合、無意識の内に踏まえているものかもしれませんが、大事なことを伝える時には、特にこのG(ギビング)T(タッチング)T(ティーチング)の準備段階を心がけるようにしたいものです。

